

事例名

地球観測衛星データを活用した 天候インデックス保険の開発

受賞者

損害保険ジャパン日本興亜株式会社
損保ジャパン日本興亜リスクマネジメント株式会社

事例の概要

受賞者は、日本などの地球観測衛星から推定された雨量(GSMaP)^{※1}を活用し、ミャンマーの小規模農家を対象にした『天候インデックス保険』を一般財団法人リモート・センシング技術センター(RESTEC)と共同で開発した。その結果、地上気象観測データに関するインフラが整備されていない途上国においても、『天候インデックス保険』を開発できることを実証した。

『天候インデックス保険』は、気候変動に対する適応策として注目されているものであり、今後は、本技術も活用して、ミャンマーだけでなく、気象災害に脆弱な東南アジアの多くの小規模農家に対して、『天候インデックス保険』を積極的に展開していく。

※1 JAXA提供

ポイント・具体的成果等

1. 市場拡大への貢献

これまで、地上気象観測データに関するインフラが整備されていない途上国では、天候インデックス保険の開発が困難であったが、本商品の開発により上記の問題が解決され、ターゲットとなる東南アジアでの潜在市場規模は農業従事者数に相当する1億人超に拡大した。

2. 産業、生活、行政の高度化及び効率化への貢献

この保険により、農家は干ばつによる収入減少リスクに備えることが可能となる。極端な天候リスクに対する農家の強靱性を高めることで、ミャンマーのGDPの約4割を占める農業の発展に貢献する。

3. 技術への貢献

GSMaPを活用した天候インデックス保険の開発は日本初の事例。地球観測衛星データの活用可能性拡大に貢献するものであった。

4. 普及啓発への貢献

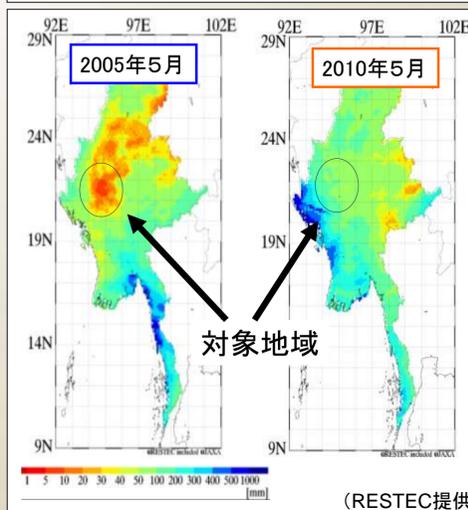
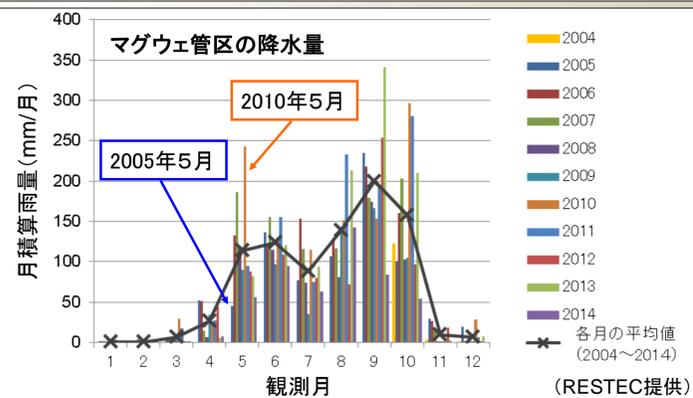
GSMaPを活用した、気候変動に対する適応策としての保険開発の事例として、日本だけでなく、ミャンマーにおいても多くのメディアで取り上げられた。現在、ミャンマー以外の国における活用の検討も進行中である。

■ ミャンマー専用の天候インデックス保険

対象地域	ミャンマーの中央乾燥地帯 (マゲウエ管区、ザガイン管区など)
保険対象者	対象地域の農家
対象作物	米、ゴマ
対象リスク	干ばつ(雨季の少雨リスク)
補償内容	GSMaPの雨量が事前に定めた値を下回った場合に、事前に定めた金額を保険金としてお支払いします。



(引用元: <http://en.wikipedia.org/wiki/Burma>)



(RESTEC提供)



【図表について】

- 上 : ミャンマー専用の天候インデックス保険の概要
- 中 : GSMaPデータを元に作成した、マゲウエ管区の各年各月の累積雨量
- 下(左) : GSMaPデータを元に作成した、ミャンマー全土の累積雨量マップ
(左: 2005年5月の雨が少ない年、右: 2010年5月の雨が多い年)
- 下(右) : 農家へのヒアリング調査の様子

問合せ先

損害保険ジャパン日本興亜株式会社

〒160-8333 東京都新宿区西新宿1-2-6-1

03-3349-3111 (代表) <http://www.sjnk.co.jp/>